

略解

問題 1

1. 命題  $p$  と命題  $q$  の関係式  $p \wedge \neg q \equiv \neg(p \rightarrow q)$  を証明せよ。
2.  $P(x, y)$  を命題関数とする。次の中で正しい推論を選び、理由を簡単に述べよ。
  - $\exists x, \forall y, P(x, y) \Rightarrow \forall y, \exists x, P(x, y)$
  - $\forall x, \exists y, P(x, y) \Rightarrow \exists y, \forall x, P(x, y)$

1. 真偽表を書くと、

$p$	$q$	$\neg q$	$p \wedge \neg q$	$p \rightarrow q$	$\neg(p \rightarrow q)$
$T$	$T$	$F$	$F$	$T$	$F$
$T$	$F$	$T$	$T$	$F$	$T$
$F$	$T$	$F$	$F$	$T$	$F$
$F$	$F$	$T$	$F$	$T$	$F$

よって、 $p \wedge \neg q \equiv \neg(p \rightarrow q)$  が成り立つ

2.  $\exists x, \forall y, P(x, y) \Rightarrow \forall y, \exists x, P(x, y)$  が正しい推論  
 左辺では、ある  $x$  が存在して  $\forall y, P(x, y)$  である。この  $x$  を  $\bar{x}$  とすると、全ての  $y$  に対して  $P(\bar{x}, y)$  が成り立つ。このとき右辺では、任意の  $y$  に対し、 $x$  として  $\bar{x}$  を持ってくると  $P(x, y)$  が成り立つ。よって、正しい推論である。  
 一方、 $\forall x, \exists y, P(x, y) \Rightarrow \exists y, \forall x, P(x, y)$  は正しくない。例えば、 $x, y$  を実数として  $P(x, y)$  を  $x = y$  とする。このとき、 $\forall x, \exists y, P(x, y)$  は、任意の  $x$  に対し  $x$  と等しい  $y$  を取ることにより成り立つが、 $\exists y, \forall x, P(x, y)$  はどんな  $y$  を持ってきても  $x$  として例えば  $y + 1$  を取ってきたときに成り立たない。

問題 2

1.  $A^c \cap B - (B \cap A)$  が成り立つことを示せ。
2.  $f: A \rightarrow B$  を写像とし、 $P, Q$  はそれぞれ  $A, B$  の部分集合とする。 $f$  が全射ならば  $f(P) \cup Q = f(P \cup f^{-1}(Q))$  となることを示せ。

1.

$$\begin{aligned}x \in B - (B \cap A) &\Leftrightarrow x \in B \text{ かつ } x \in (B \cap A)^c \\&\Leftrightarrow x \in B \text{ かつ } x \in (B^c \cup A^c) && \text{ドモルガンの法則} \\&\Leftrightarrow (x \in B \text{ かつ } x \in B^c) \text{ あるいは } (x \in B \text{ かつ } x \in A^c) \\&&& \text{分配法則} \\&\Leftrightarrow x \in B \text{ かつ } x \in A^c \\&\Rightarrow x \in A^c\end{aligned}$$

よって、 $A^c \supset B - (B \cap A)$  が成り立つ。

2.

$$\begin{aligned}y \in f(P) \cup Q &\Leftrightarrow y \in f(P) \text{ あるいは } y \in Q \\&\Leftrightarrow \exists x, x \in P, f(x) = y \\&\quad \text{あるいは } \exists x, x \in f^{-1}(Q), f(x) = y && (\Rightarrow \text{は全射より}) \\&\Leftrightarrow \exists x, (x \in P \text{ あるいは } x \in f^{-1}(Q)), f(x) = y \\&\Leftrightarrow \exists x, x \in P \cup f^{-1}(Q), f(x) = y \\&\Leftrightarrow y \in f(P \cup f^{-1}(Q))\end{aligned}$$

よって、 $f$  が全射のとき  $f(P) \cup Q = f(P \cup f^{-1}(Q))$  が成り立つ。

---

### 問題 3

$\mathbb{R}$  から  $\mathbb{R}$  への写像  $f$  を  $f(x) = x^2$  と定める。また、自然数  $n$  に対し集合  $P_n$  と  $Q_n$  を  $P_n = \{x \in \mathbb{R} \mid -2^{-n} < x < n\}$ ,  $Q_n = \{x \in \mathbb{R} \mid -3 + \frac{1}{n} \leq x \leq 3 + \frac{1}{n}\}$  とおく。

1.  $P = \bigcap_{n=1}^{\infty} P_n$ ,  $Q = \bigcup_{n=1}^{\infty} Q_n$  とする。このとき  $P, Q$  を求めよ (答えだけで良い)。
2.  $f^{-1}(f(P))$ ,  $f(f^{-1}(Q))$  を求めよ。

---

1.  $P = \{x \in \mathbb{R} \mid 0 \leq x < 1\}$ ,  $Q = \{x \in \mathbb{R} \mid -3 < x \leq 4\}$   
(境界部分を含むか含まないかに注意を要する。)

2.  $f(P) = \{x \in \mathbb{R} \mid 0 \leq x < 1\}$  より  $f^{-1}(f(P)) = \{x \in \mathbb{R} \mid -1 < x < 1\}$ 。  
 $f^{-1}(Q) = \{x \in \mathbb{R} \mid 0 \leq x \leq 2\}$  より  $f(f^{-1}(Q)) = \{x \in \mathbb{R} \mid 0 \leq x \leq 4\}$ 。

---

問題 4

2次元の実数ベクトルの集合を  $\mathbb{R}^2$  とする。Aの2つの元  $x = \begin{pmatrix} x_1 \\ x_2 \end{pmatrix}$ ,  $y = \begin{pmatrix} y_1 \\ y_2 \end{pmatrix}$  に対し、 $y_1 - x_1 \leq x_2 - y_2 \leq x_1 - y_1$  が成り立つとき  $xOy$  として、集合  $\mathbb{R}^2$  における関係  $O$  を定義する。

1. 順序の公理を述べよ。
  2. 上記の  $O$  が順序関係であることを示せ。
- 

1.

反射律:  $\forall x \in \mathbb{R}^2, xOx,$

反対称律:  $\forall x, y \in \mathbb{R}^2, xOy, yOx \Rightarrow x = y,$

推移律:  $\forall x, y, z \in \mathbb{R}^2, xOy, yOz \Rightarrow xOz.$

2. 反射律:  $\forall x \in \mathbb{R}^2$  に対し、 $x_1 - x_1 \leq x_2 - x_2 \leq x_1 - x_1$  が成り立つので  $xOx$   
反対称律:  $xOy, yOx$  とする。このとき、

$$y_1 - x_1 \leq x_2 - y_2 \leq x_1 - y_1, \quad x_1 - y_1 \leq y_2 - x_2 \leq y_1 - x_1$$

という関係が成り立つ。この不等式を組み合わせると、全ての不等号は等号で成り立つことがわかる。このとき、 $y_1 - x_1 = x_1 - y_1$  から  $x_1 = y_1$ 、 $y_2 - x_2 = x_2 - y_2$  から  $x_2 = y_2$  がいえる。よって、 $x = y$  となる。

推移律:  $xOy, yOz$  とする。このとき、

$$y_1 - x_1 \leq x_2 - y_2 \leq x_1 - y_1, \\ z_1 - y_1 \leq y_2 - z_2 \leq y_1 - z_1$$

という不等式が成り立つ。上下の不等式を足すと、 $z_1 - x_1 \leq x_2 - z_2 \leq x_1 - z_1$  が成立する。よって、 $xOz$  である。

反射律、反対称律、推移律が成り立つので順序関係である。